

令和4年度第2回愛知県環境審議会専門調査員協議会 会議録

1 日時

令和5年2月22日（水） 午後2時から午後5時まで

2 場所

愛知県自治センター 5階 研修室

3 出席者

(1) 専門調査員

加藤専門調査員、瀧崎専門調査員、中西専門調査員、中村専門調査員、村松専門調査員、
榊原専門調査員、水野専門調査員、木村専門調査員、中尾専門調査員、森専門調査員、
山岡専門調査員、吉村専門調査員

(以上12名)

(2) 事務局

愛知県環境局環境政策部

自然環境課：夏目担当課長、磯谷課長補佐、佐藤課長補佐、河田主査、
金子主任、加藤技師、向主事

東三河総局環境保全課：河合課長

東三河総局新城設楽振興事務所：鈴木主事

尾張県民事務所環境保全課：小澤主事

海部県民事務所環境保全課：清水主査

知多県民事務所環境保全課：桐井課長補佐

西三河県民事務所環境保全課：中根主任

西三河県民事務所豊田加茂環境保全課：矢島主任

(以上14名)

4 議題

(1) 令和4年度愛知県自然環境保全地域等の追跡調査について

ア 自然環境保全地域

令和4年度の愛知県自然環境保全地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった（欠席した専門調査員の報告は事務局が代読）。事務局から指摘に対する回答を行った。

意見等の概要は次のとおり。

① 田之土里湿原（豊田市）

（中西代表専門調査員 報告）

ムカゴニンジン等が減少傾向、チゴザサ等が増加傾向にあり、大きな原因はシカによる食害と考えている。侵入防止対策をとっているようだが、植生を見た限りでは、効果は出ていないように思える。また、野生動植物保護地区周辺の石の歩道について、当初は水系

を荒らさずに人が歩いてよいと思ったが、現在見てみると、石の間に土が溜まって、周辺から流れ込む水の流れを阻害してしまっているかと思う。これらの対策が必要と考える。

(小鹿専門調査員 報告)

(事務局代読) トノサマガエル、マムシ、キタキチョウ、ヒョウマダラエダシヤク、カワトンボの仲間、オニヤンマ、ミドリヒョウモン、アカタテハ、センチコガネ、クロナガオサムシ、ビロウドマイマイの仲間等が確認できた。サンショウウオの仲間が生息している可能性があり、時期を変えての調査が望まれる。シカによる植物の食い荒らしが心配される。看板の補修・更新等が必要。

(中尾専門調査員 報告)

4月の初めで芽吹きの前だったので、水位の状況や水の入り込む場所などは大変よく確認できた。地形・地質には特に大きな変化は認められないと思う。調査の際、地域の方に許可をとっているという人が、野生動植物保護地区の中に入っていて驚いた。自然環境課に問い合わせたところ、条例では立入を禁止していないとのこと。昨年調査をした猿投山は立入等が厳しく規制されていた。色々な考え方があると思うが、今回のように許可を得て人が立ち入ることについて、保全のため、あるいは地域の方の理解を深めるために、あってもいいことではないかと思った。

(事務局 指摘に対する回答)

シカ侵入防止柵の建替えについて検討を進める。石の歩道の隙間について、順次土の除去を行う。問題のあった看板の補修等を行った。今後も必要に応じて更新等を行っていく。野生動植物保護地区への立入について、条例による規制はないが、当該保全地域は民有地であり、土地所有者の承諾が必要。一般の方には、従来どおり周囲にある石の歩道から見学をしていただきたいと考えている。

(瀧崎専門調査員)

シカ対策について、柵を高くするだけではおそらく効果が出ない。現在、茶臼山のエンシュウツリフネの保護柵で行われているように、周りの地面まで網を垂らして広げるような方法等を考えてほしい。

(事務局)

情報を共有し、同じような手法で柵の補修を検討したいと思う。

(木村専門調査員)

小鹿専門調査員の調査報告書にあるカタツムリについて、非常にはっきりとした写真を撮られており、ビロウドマイマイで間違いはないと思う。

(中尾専門調査員)

調査の際に、野生動植物保護地区等に人が入っているところに行き会った場合、どのように声掛けしたらよいのか対応が難しい。

② 蓮華寺寺叢（あま市）

（加藤専門調査員 報告）

指摘した看板の誤字等について、既に修正されたということで早急な対応に感謝する。報告書の図面に記載したように、丸く円を描くような軌跡で寺叢内を3周し、調査を行った。保全のために必要な措置は特にないと思われる。

（水野専門調査員 報告）

実際に行ってみると、結構すごいなという印象を受けた。寺叢というのか森がしっかり残っている。周囲にはところどころ太陽光パネルが設置されている場所もあり、自然を減らさず建物の上につけるような方向で、行政から指導してもらえるといいのではないかと思った。寺の中に植樹してある場所もあるが、保全地域外なので問題ないと思う。

（服部(俊)専門調査員 報告）

（事務局代読）保全地域の説明板で自然堤防との記載があるが、以前の指摘にもあるように、周辺の自然堤防と比較するとあまりに標高が高く、戦国期における水害からの防御策として、盛土がなされた可能性について検討した方がよいと感じた。よく手入れされており、保全のために必要な措置はないと考える。

③ 青鳥山（西尾市）

（瀧崎専門調査員 報告）

ゴルフ場と隣接した藪という状況となっており、これとって取り上げるべき植物の特徴はない。外来のマテバシイやモウソウチクが幅をきかせており、これはどうしようもないと思う。多少残っていたのは、ヌスビトハギの群落くらい。

（服部(伸)専門調査員 報告）

（事務局代読）18種の野鳥が観察された。センダイムシクイ、ウグイス、ヤマガラ、コゲラ等が観察され、森林に棲む鳥にとっても、渡っていく鳥にとっても、一定の役割を果たしている地域だと考えられる。過去の調査報告でも指摘があったが、特別地区の解説板は傷みがひどく、更新が望まれる。ゴルフ場と保全地域の境界を入っけこうとしたが、藪にさえぎられており、入口の整備が必要。

（事務局 指摘に対する回答）

傷んだ解説板について修復を実施したが、今後更新を検討する。比較的アクセスが容易な箇所から入口の整備を検討したい。

④ 海上の森（瀬戸市）

（村松専門調査員 報告）

四ツ沢のスミレサイシンの生育地はイノシシが出てきているようだが、どれくらいいるのかは定かでない。ビワコエビラフジは以前調査した時より随分減ってきていて、やはり周りの木を切って明るくする必要があるのではないかと思う。屋戸川の湿地周辺はかなり整備されて、いい環境が保たれている。コタチツボスミレが随分少なくなっているが、はっきりした原因は分からない。特別地域は屋戸川、四ツ沢、篠田池付近にあるが、篠田

池付近はシデコブシがあるものの、あまり意味がないような感じがする。篠田池から西の方へ川を下る道は、藪になっていて入れないような状態で、途中まで行って引き返した。

(榊原専門調査員 報告)

海上の森に3か所ある特別地域は、いずれも一番規制の強い野生動植物保護地区であり、県の許可を得て捕獲調査を行った。野生のイノシシや外来種のソウシチョウを初めて見た。指定書に書いてある希少動物として、ホトケドジョウを確認した。カワバタモロコらしき魚群も屋戸川で見たが、遠目なので、しっかり確認がとれていない。その他に、ヒトスジキソトビケラも確認できた。概ね自然環境はよく保たれていると思う。

(山岡専門調査員 報告)

地形・地質に大きな変化はなかった。保全地域から少しはずれた場所に、きれいな猿投山北断層の露頭があることが、以前から気になっている。8年ほど前には断層のマサ土化した部分が深く掘られて穴になってしまっていたため、海上の森センターに採掘禁止の張り紙をしていただいた。4年前には手作りの説明板を設置してもらった。断層の部分は弱いので、露頭になって出てくるということは通常ない。可能であれば保全地域の枠を少しずらすような調整をし、この貴重な断層の露頭を保全地域の中に入れて今後も保全をすることが望ましいのではないかと考えている。

(事務局 指摘に対する回答)

ビワコエビラフジについて、管理者等と対応を検討する。コタチツボスマイレについては、後日、詳しい状況等を伺いたいと思う。スマイレサイシンの生育区域の拡大にイノシシの掘り返しが関係している可能性も考えられるため、引き続き状況を確認していきたい。管理者にも情報提供を行った。

(村松専門調査員)

地質関係で伺いたい。昔は瀬戸層群という名前で記憶をしていたが、今は東海層群に名前が変わったのか。瀬戸層群という名前は今も使われているのか。

(山岡専門調査員)

東海層群というのは、愛知県、岐阜県を含め非常に広い範囲のものを一括して呼んでいるもの。瀬戸地域に分布しているものを、東海層群の中でも瀬戸層群と呼んでいる。岐阜県では土岐砂礫層、知多半島では常滑層群というように名前が変わるだけで、地層の推定年代や堆積環境についてはほぼ同じものが、北の方から南の知多半島までつながっている。そのような場所に湧水湿地が形成され、東海丘陵要素の植物群などが生育している。全部含めて東海層群であり、研究者や地域によって呼び方が違っているだけである。

(中尾専門調査員)

山岡専門調査員から断層の保全に関して指摘があった。保全地域の指定について、民有地等で難しいというような話もあるかもしれないが、荒らされてしまってはどうしようもないところがある。どのように対応されるのか。

(中西代表専門調査員)

保全地域の区域を変更するということは本当に大変なことだと思うので、要望を伝えるというところで今は終わってよいと思う。山岡専門調査員や中尾専門調査員が言われたことは非常に大切なことなので、事務局も頭に入れておいてほしい。

イ 自然環境保全地域候補地

令和4年度の愛知県自然環境保全地域候補地の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった(欠席した専門調査員の報告は事務局が代読)。事務局から指摘に対する回答を行った。

意見等の概要は次のとおり。

① 御園岩山(北設楽郡東栄町)

(福岡専門調査員 報告)

(事務局代読) 高木層は大きな変化は見られず良好に保たれ、ケヤキ、トチノキ、アラカシ等が確認できた。一方、低木層や草本層は壊滅的でほとんど何もないような状況であり、わずかに見られる種はツタ、テイカカズラ、ミツバアケビ等。イタチササゲやミヤマタニワタシは南部道路脇にのみ確認された。シカによる食害は顕著であり、この場所に限らず、全県的に状況は悪化していると考えられる。

(岡田専門調査員 報告)

(事務局代読) 岩礫の場所には草本は少なく安定した樹林となっている。シカの通った道やその糞、ネズミ及びイノシシの食痕等が確認された。地元の人のお話ではニホンカモシカは減り、ホンシュウジカが増えてきたとのこと。昭和50年3月の調査報告書中に巡視歩道や標識に関する記載があるが、実際はどうなっているのか。

(原瀬専門調査員 報告)

(事務局代読) 本地域は、砂質凝灰岩及び砂質凝灰岩/凝灰質泥岩互層の分布域に、輝石安山岩が広く貫入している地質で、露頭は少なく、輝石安山岩の転石が山中に広がっている。転石の表面は風化しているが、割ってみると内部は新鮮で、一部にはガスキャビティが見られる。保全のために必要な措置はないと思われるが、林道の設置などにより、地形が大きく変化するようなことがあれば注意をしていく必要がある。

(事務局 指摘に対する回答)

狩猟や市町村による有害鳥獣捕獲のほか、国の交付金を活用した県による捕獲事業等を進め、引き続きニホンジカの生息密度の低減に取り組んでいく。当該地域は自然環境保全地域への指定に至らなかったため、巡視歩道や標識は設置されていない。

ウ すぐれた自然地域

令和4年度のすぐれた自然地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。事務局から指摘に対する回答を行った。

意見等の概要は次のとおり。

① 鳳来寺山（新城市）

（中村専門調査員 報告）

過去の調査と合わせ、東照宮、天狗岩、山頂、本堂等のルートで調査を実施した。モミ、ツガ等の過去に確認された植物は引き続き確認され、大きな変化はなかったと思う。モリアオガエル生息地とされている場所では、アカハライモリを多数確認した。調査中、道を走っている方とのすれ違いがあり、トレイルランの是非は分からないが、少し検討が必要かと思った。

（木村専門調査員 報告）

鳳来寺山は愛知県の陸産貝類の最も重要な産地である。調査日は大雨の後の好条件であり、ツムガタモドキギセル、イブキゴマガイ、ニホンケシガイ、オオウエキビガイ、オオギセル、ビロウドマイマイ等、多様な種が確認された。また、今回、ミニビロウドマイマイが初めて記録された。ビロウドマイマイとミニビロウドマイマイは、DNA解析上ほぼ違いがないが、明らかに生殖隔離があり、見た目が違っている。この2種が同所的に見られたということは、非常にいい状態だと思う。鳳来寺山がタイプ産地であるホウライジギセルについては、今回の調査で確認できなかった。生息地の一部で樹林が伐られ、乾燥化が気になっている場所がある。また、マニアによる採集圧も心配。ただし、ホウライジギセルはもともと個体数が少ないため、好条件でも確認できない時がある。今後もモニタリングをしていかないといけないと思う。

（吉村専門調査員 報告）

医王院、松高院、奥の院の上の休憩所、天狗岩の東屋等、全体的に建物がかなり老朽化している状況がある。崩れてから片づける方が時間も手間もかかるし、このような場所に立ち入る方もいるので安全面が気になった。また、転落防止で張ってあるトラロープについて、人がぶら下がり切れないほどの強度はないので危ないと思う。地質について色分けして整理した。長年見ているが、地質の境界がどうなっているか等、よく分からない部分がまだたくさんある。ただ、貴重な岩石は多く、特に松脂岩というのは日本全体で見てもそれほどない。また、これほどまとまって産出する場所もない。

（事務局 指摘に対する回答）

鳳来寺山は天竜奥三河国定公園の特別保護地区に指定され、木竹の伐採等の自然を改変する行為については厳しく規制されており、今後も周知に努めたい。国の名勝・天然記念物に指定され、多くの方が訪れる観光地にもなっており、建物の老朽化等に関する指摘について、新城市観光課に伝えた。東海自然歩道については、管理している市町村からの要望を受け、県下で優先順位の高いものから順次修繕を行って。指摘の箇所についても、市から要望があった際には適切に対応する。

（木村専門調査員）

参道横で倒木が生じると危険なので、ある程度伐採が必要なのは理解できる。間伐材を残置している場所に貝類が生息していたりすることもある。規制内容を強く伝えるというよりも、カタツムリは人間活動のある場所と山奥の接点のような環境を好むので、そのような状況を寺の敷地を管理している方等に分かっていただくと有難いと思う。

(村松専門調査員)

ハウライジギセルをマニアが採取するという話があったが、どういう目的か。

(木村専門調査員)

販売する。採取した個体を親にして増やしたりする。ハウライジギセルは生息箇所が3か所程なので、集中的に狙われる。

(村松専門調査員)

規制をかけてはどうか。

(木村専門調査員)

規制をかけても、それを見る人との関係もある。ただ、確かにこの種は生息場所が限られているため、種指定による規制は行いやすいかと思う。

② 乳岩 (新城市)

(森専門調査員 報告)

乳岩峡の景観は素晴らしい。単に溪谷美だけでなく、鳳来湖や鳳来寺山周辺に分布する流紋岩・松脂岩・凝灰岩などの火山碎屑物が、新第三紀中新世の頃、西南日本全域で活動したカルデラ噴火によるものであることを考慮すれば、設楽火山岩類の成因や活動史全体をジオ、地球ドラマの恵みととらえ、大地の成り立ちや奇岩の持つ意義を広く知らしめるムーブメントが必要であると考えます。乳岩溪に至る道路上に車止めが設置され、駐車場料金をとって、入山を制限する措置がとられていたが、正しいことなのか。また、所々で鉄梯子の腐食が進行しており、定期的な点検修理をお願いしたい。

(吉村専門調査員)

乳岩の天然記念物の指定理由として、凝灰岩に鍾乳石があるというようなことが書いてあるが、私は流紋岩の割れ目から石灰分の多いものがしみだし、乳房状の鍾乳石のようなものができていると思っている。明治の初め頃の地質学雑誌に流紋岩質の凝灰岩との記述があり、それがずっと残っているが、凝灰岩と判断した理由は不明。最近、乳岩が色々な旅行雑誌にも掲載されているが、そこに凝灰岩と書かれていて、このままでよいのか気になっている。

(中西代表専門調査員)

研究を行い、それを発表されるといいのではないかと思います。

(森専門調査員)

天然記念物の指定後に、研究が進んだり、岩石名が変わったりしても、もともとの指定理由の内容を変更することは相当難しい。他の事例を見ても、そのような対応は行われていないのが実情かと思う。

(事務局 指摘に対する回答)

乳岩及び乳岩狭は、国の名勝・天然記念物に指定され、多くの方が訪れる観光地にもなっており、鉄梯子の腐食等に関する指摘について、新城市観光課に伝えた。

(森専門調査員)

乳岩溪に至る道路上の車止めについて、新城市観光課が正式に行っているものか等、詳細は調べられたか。以前はもっと乳岩の近くに無料で駐車をできた記憶がある。もし一般の方の判断で、車を止めたり、有料で駐車をさせたりしているのであれば、あまり正しいことではないのではないかと思った。

(事務局)

駐車場があり、料金をとっていることは把握しているが、新城市が委託をしているかどうか等は確認していない。駐車場の状況について改めて確認し、次回の協議会で報告したいと思う。

(中村専門調査員)

補足だが、5年前の調査では駐車料金を払った記憶はない。

(瀧崎専門調査員)

以前は道路の一番奥に駐車する場所があり、その土地を管理しながら、何か販売しているような方がいた。おそらくその方がいなくなり、別の方がより手前の道路で何かを始めたのではないか。

(中尾専門調査員)

乳岩で行われる研修に参加したことがあるが、三河川合駅近くの駐車場に無料で駐車し、そこから歩いた。その際に聞いた話では、車を止める規制がされたのは去年か一昨年くらいで、ロックライマーが非常に多く、緊急車両が入れないため、規制をすることになったとのことだった。

(中西代表専門調査員)

駐車場に関し、県の方で確認し、次回報告をいただくということをお願いする。

(2) 令和5年度愛知県自然環境保全地域等の追跡調査について

・事務局から、資料について説明を行った後、追跡調査地域の選定について協議した。追跡調査地域は以下の6地域とした。

(自然環境保全地域) 大沼、壱町田湿地、山中八幡宮、東谷山

(自然環境保全地域候補地) 吉川峠

(すぐれた自然地域) 御津山

専門調査員の相互調整により、調査を担当する地域を決定した。

・次の意見等が出された。

(山岡専門調査員)

追跡調査地域の選定方法について、全ての調査地域を常に植物、動物、地形・地質の3部門が揃って調査をすべきかどうか。場合によっては、ある部門のみ別の地域を調査してもよいのではないかという意見もある。その辺りの議論が必要であると認識している。

(中西代表専門調査員)

確かにこれまでの協議会で両方の意見が出ている。先になってしまうが、改めて次回話し合うということになるか。

(事務局)

今年度の追跡調査地域の選定については、本日決定した内容で実施させていただき、来年度以降の進め方について、夏頃に予定している令和5年度第1回専門調査員協議会で協議を行うことにさせていただきたい。

(中西代表専門調査員)

それでは次回の協議会でお願いします。

(3) 自然環境保全地域に関するウェブページの更新について

事務局から、自然環境保全地域のうち3地域(吉祥山、小堤西池、茅原沢)のウェブページの更新案について説明を行った。

意見等の概要は次のとおり。

(中尾専門調査員)

吉祥山について、写真を載せるのは賛成だが、顕微鏡写真を載せるのか。普通の岩石の写真だと、細粒で非常に分かりにくい。また、地質図は産業技術総合研究所の地質図をリンクするのか。

(事務局)

愛知県の新城設楽振興事務所のウェブページで既に公開されている「新城設楽の地形・地質」というページにリンクする。顕微鏡写真ではなく、岩石の写真が掲載されている。もしご提供いただける顕微鏡写真があれば、掲載させていただきたい。地質図については、地理院タイルに20万分の1日本シームレス地質図を重ねたものである。

(木村専門調査員)

吉祥山について、動物に関する記載がない。ミカワマイマイというとても希少な種について、吉祥山の調査で採取された標本をレッドデータブックあいち2020に掲載している。詳しい解説も載せてあり、県のウェブページであるので、リンクをするとよいのではないかと思う。

(山岡専門調査員)

小堤西池について確認したい。「カワバタモロコ、ナゴヤダルマガエル、ニホンイシガメ等が生息します」とあるが、これは水路であって、小堤西池ではないということでは

か。水路のことであれば、別の上流の池から灌漑用によって下ってくる水で、外来種等も入り込んでいるため、特に保全の必要はないかと思う。

(事務局)

周辺の水路ということで記載している。

(山岡専門調査員)

まだ発表していないが、周辺の水路ではなく小堤西池自体にもカワバタモロコがいる。水路について記載する必要はないのではないか。

(事務局)

雑木林や水路という具体的な記載は省くなど、文章を修正することとする。

(中尾専門調査員)

前の段落との重複等にも注意し、文章を推敲するとよいと思う。

(4) 情報提供

- ・野生イノシシ対策室の辻井室長補佐から、野生イノシシの豚熱対策及び捕獲の課題等について、情報提供がなされた。

(5) その他

- ・次回の令和5年度第1回専門調査員協議会については、動物部門の専門調査員が研究発表を行うこととなった。
- ・愛知県環境審議会専門調査員協議会の会議録については、愛知県環境審議会運営規程第7条第1項の規定に基づき、2名の専門調査員による署名が必要であるため、中西専門調査員（植物部門）及び森専門調査員（地形・地質部門）を署名者として選出した。